

2024(令6)年11月1日

湖北から敦賀を訪ねる

梅花女子大 市瀬雅之先生

JR茨木駅西口→竹田駅→車窓から比良の山並み、琵琶湖 →道の駅藤樹の里あどがわ →伊香具神社
塩津神社→道の駅あじかまの里(昼食)→塩津海道常夜灯 → 気比神宮→ 気比の松原→ 帰途



* 白髭神社 — あどがわ * 伊香具神社



比良の山並み

楽浪の
比良山風の
海吹けば
釣りする海人の
袖返る見ゆ
柿本人麻呂
9巻-1715

国道161号をバスで通過

白髭神社 近江最古

三尾の海に
網引く民の
手間もなく
立ち居につけても
都恋しも
紫式部



境内の紫式部歌碑

161号を挟んで鳥居が湖中に建つ

大御船
泊ててさもらふ
高島の
三尾の勝野の
渚し思ほゆ
作者未詳
巻7-1171



見え隠れする琵琶湖

伊香具神社(長浜市木之本町)



高島市に入ると開ける



藤樹の里あどがわ
儒学者中江藤樹の里



安曇川を渡る

伊香具神社の背後 琵琶湖と余呉湖の間に賤ヶ岳の山々





塩津神社 長浜市西浅井町塩津浜547

琵琶湖の水運 丸子舟



塩津港の遺跡

あじかまの里
「あぢかま」は
塩津を指す枕言葉
びわ湖の水辺で
冬を越す鴨に由来

知りぬらむ
行き来にならず
塩津山
世にふる道は
からきものぞと
紫式部

あぢかまの
塩津をさして
漕ぐ舟の
名を告りてしを
逢はざらめやも
作者未詳歌

巻11-2747



塩津海道と常夜燈
長浜市西浅井町塩津浜

気比神宮の大鳥居(重要文化財高さ10.9m)
春日大社、厳島神社と並ぶ三大木造鳥居

気比神宮 拝殿



拝殿横に咲く
初冬の桜



角鹿神社

土公さん「触るべからず、畏み尊ぶべし」
地元の神様 伊奢沙別(いざさわけ)命 が降臨したと伝わる

気比の松原



越の海の
手結が浦を
旅にして
見ればともしみ
大和偲びつ
笠朝臣金村

巻3-367

手結が浦辺り



金村は
角鹿の津
から船に乗って
越前国府へ
向かい
ました

